

資源循環による環境にやさしい 農業の実践

—有機性廃棄物分解機能—

築上町有機液肥固形堆肥利用者協議会



液肥散布機の施肥風景

築上町では、平成6年4月から、し尿を好気性発酵させ有機液状堆肥（以下「液肥」という。）化し、農地に還元する「資源循環型農業」を推進している。また、液肥及び固形堆肥利用者から構成される有機液肥固形堆肥利用者協議会（以下「協議会」という）と連携し、小学生を対象に液肥を使った米づくり体験を支援している。液肥米はブランド化され町内の小中学校の米飯給食としても供給している。



ちくじょう
福岡県築上町



循環授業
(稲作体験学習)

〔有機性廃棄物分解〕

液肥は、町内で収集したし尿および浄化槽汚泥を原料に、微生物酵素剤を加え水中エアレーターで空気を送り高温好気性発酵させて製造する。この結果、原料中の有害な細菌は死滅し衛生的な液肥になる。液肥生産量は、平成28年度実績で年間約8,300t。

協議会は、町で製造される液肥や牛糞堆肥を利用し、液肥は主に水田で、水稻、麦、レタス、なたね、スイートコーンなどの作物に基肥や追肥として年間延べ約200ha利用され消費者が求める安全・安心な農産物の生産と環境にやさしい農業に取り組んでいる。

協議会で生産する液肥米は「シャンシャン米・環（たまき）」としてブランド化され、平成15年度から学校給食米として供給しており、地場農産物利用の牽引役になっている。また液肥米は平成18年から、なたね油（ブランド名「菜の花油」）は平成24年から福岡県減農薬・減化学肥料栽培認証を受け、より安全な農産物として栽培されている。



減農薬・減化学肥料栽培
認証を受けた「シャン
シャン米・環」

〔体験学習と教育〕

築上町では、資源循環型農業について理解してもらうため、町内の小学校（5年生）の総合学習で、町独自の取組を紹介し、液肥を使った米づくり体験を応援している。こうした循環授業は平成14年度から続けられており、町の液肥事業の普及と食育の一翼を担っている。

【令和2年度更新】

